監修の辞

“エビデンスをもとに，さらに個々の医師の経験を生かして診療する”
DL Sackett

循環器領域には，ハーバード大学のBraunwaldとDzauとが提唱した，心血管疾患の連続性（Cardiovascular Continuum）という有名な概念があります．これは，高血圧や糖尿病，肥満などの生活習慣病の患者さんは，心肥大や動脈硬化から，心筋梗塞を発症し，心室リモデリングをへて，心不全となり，最後に命を落とすというものです．最近注目されているメタボリックシンドロームや慢性腎臓病（CKD）の場合も同じでしょう．つまりこれらの生活習慣病の患者はいずれも最終的には，心筋梗塞や脳卒中となることが問題なのであり，我々としては，いかにそのような重大な事態にさせないかが重要となってきます．

EBMの重要性が叫ばれて久しくなります．冒頭のSackettの言葉にあるように，まずはエビデンスを理解した上で，医師の経験によって，それを個々の患者さんごとにうまく使いこなすことが必要です．しかし最近では，あまりにも多くの大規模臨床試験やメタ解析の結果が発表されており，それらを全て自家薬籠中のものとすることは困難です．そこでこの目的を達するべく，種々の生活習慣病の診療のポイントについて，分かりやすく解説したのが本書です．診療する際に，本書を手元において参照いただくことにより，一人一人の患者さんにあった治療方針を立てる一助になれば，監修したものとして幸甚です．そして患者さんのCardiovascular Continuumの進行が止まることを祈念しています．

2009年 4 月

小室一成